

会 議 録

会 議 の 名 称	平成28年度第1回子ども・子育て会議	
開 催 日 時	平成28年11月22日(火) 午前10時～正午	
開 催 場 所	役場庁舎2階 大会議室	
議 題	(1) 子ども・子育て支援新制度について (2) 子ども・子育て支援拠点施設(総合センター)について・施設内容・運用方法等について (3) 施設愛称について (4) その他	
公開・非公開の別	公開(傍聴人1名)	
出席者	委 員	中谷茂一、山口三葉子、栗田富美子、粕谷克己、神山晴光、石川まり子、鈴木純子、笛木小春、石津瑞枝、新井久美子、北川由美、鈴木恵美
	事務局職員	子育て支援課 山崎勝義、松本竹司、丸山敬之、小島秀夫
配布資料	資料1 平成28年度第1回川島町子ども・子育て会議次第 資料2 川島町子ども・子育て会議委員名簿 資料3 平成28年度第1回川島町子ども・子育て会議スライド 資料4 子ども・子育て支援新制度ガイドブック 資料5 川島町子育て支援拠点施設愛称(案)一覧	
審議会等の内容・概要		
1 開会 2 あいさつ 中谷茂一会長 3 委員紹介 (自己紹介) 4 事務局紹介(自己紹介) 5 議題 (1) 子ども・子育て支援新制度について ・事務局より、子ども・子育て支援新制度の概要及び川島町子ども・子育て会議の役割、かわじま子育て応援プランについて、昨年度の実績を踏まえ、説明。 (2) 子ども・子育て支援拠点施設(総合センター)について・施設内容、運用方法等について ・事務局より、川島町子育て支援拠点施設整備計画について、現在の進捗状況や4月からオープン予定施設の事業展開(案)を説明。 (3) 施設愛称について ・子育て支援総合センターの愛称について、各所からの募集案について選考。その結		

果を踏まえ、町で確認する旨を報告。

【選考結果】

かわみんハウス：8票　かわみんひろば　：4票　ぷらり：4票
かわべえのいえ：2票　かわみんのおうち：2票　ヨーキ：1票
かわみんひろば　ぷらり：1票

(4) その他

- ・司会から、本日の会議は公開である旨を説明。
- ・会議録の署名委員は山口委員と栗田委員に決定。
- ・12月中に子育て支援拠点施設（総合センター）が完成するため、備品購入等に反映するため、委員での見学を早期に予定している旨を報告。

6 閉会 山崎勝義

ご意見まとめ

子育て支援センターについて

- 【委員】** 内部は完成しているのでしょうか。備品は購入したのでしょうか。
- 【事務局】** 内部は概ね完成していますが、備品購入はまだ行っていません。
- 【委員】** 子育て支援センターの床はクッションフロアとのことですが、壁は板目や角材が出ており、気になる箇所もあります。乳幼児の部屋ですので転んだ際にけがをする心配もあるのではないのでしょうか。
- 【事務局】** 元職員室を改装し、クッションフロアにしました、巾木等は残っています。未就学児が使う部屋ですので、購入予定の備品で角にクッション材を貼ったり、壁沿いにやわらかい遊具を置くことでの対応を考えています。
12月中に施設が完成するので、早い時期に一度施設を見ていただきたいと考えています。
- 【委員】** 授乳室はどのようなイメージでしょうか。高速のサービスエリアや公共施設でもいろいろなタイプの授乳室があると思います。
- 【事務局】** レールカーテン式のスペースと複数名が利用できる1部屋になります。
- 【委員】** 離乳食や哺乳瓶を温めるレンジがあると便利なので購入してほしいです。
- 【事務局】** 哺乳瓶を温める器具を購入する予定です。
- 【委員】** 昼食をはさんで滞在する際に食事スペースがあるとうれしいです。年齢ごとの食事スペース等決めておいたほうがよいと思います。
- 【委員】** 調理室ができるので、食事スペースを作ろうということになっていたがどうなったのでしょうか。
- 【事務局】** 2階にキッチンが設置されている部屋があります。この部屋は支援センターのみでなく、全体で利用できる部屋にする予定です。食事スペースについては、今後検討してまいります。
- 【委員】** 授乳室にも、2階の飲食スペースにも電子レンジを置いてほしいと思います。
- 【事務局】** 支援センター脇の給湯室にはレンジを置く予定です。
- 【委員】** 2階キッチンが設置されている部屋は、午後は児童センター向けの部屋になってしまうので、乳児のいる親が飲食をするのは現実的ではないと思います。
- 【委員】** 2部屋あるのはよいと思いますが、授乳室には設備は近くに固めたほうがよ

いので、水回りにもよるが1階授乳室を飲食スペース（乳児用）にしてほしいです。

【事務局】 検討いたします。

【委員】 町外の方でも利用できるのでしょうか。また、親子教室等のプログラムへの参加はできるようにするのでしょうか。

【事務局】 町内外の方が利用できる施設を予定しています。

【委員】 児童センターは学校の長期休暇中でも午後から利用できるようになるのか。

【事務局】 長期休暇では一日中利用できるようにする予定です。

【委員】 非常口や排煙装置は設置されているのでしょうか。安全面はどのようにとりにくんでいるのでしょうか。

【事務局】 安全面については、法的にはクリアしています。非常口、排煙装置どちらも備えています。外部委託検査についても既に完了済みです。非常口マークはもともとあったものに加え新たに追加設置もしています。子育て支援センター、放課後児童クラブ1階のサッシについては、緊急時は開けて外に出ることができるようになっています。

【委員】 調理器具・食器等の衛生管理はどのようにするのでしょうか。

【事務局】 衛生面でクリアしていかなければいけない基準があると思いますがまだ現時点でそこまでは詰めておりません。今後、配置が決まってから基準等に対応していきたいと考えています。

【委員】 常駐する職員は外部に委託依頼するのでしょうか。

【事務局】 町で設置及び管理条例を12月議会でこれから定めます。現時点では新規事業部分（子育て支援センター・児童センター）については民間事業者に委託する意向です。

スクーリングサポートセンターと放課後児童クラブについては既存の職員が今後も対応していきます。

【委員】 保護者や児童の相談場所はどのようになっているのでしょうか。

【事務局】 相談室を子育て支援センターに1室、スクーリングサポートセンターに1室設ける予定です（仕切り有）。

子育て支援センタープログラムについて

【委員】 1日2回、企画を毎日実施できるのでしょうか。

【事務局】 最低限の利用者がいれば短時間のプログラムを1日2回実施する予定です。全く利用者がいない日は実施しません。

【委員】 ものを制作するプログラムも実施するのでしょうか。

【事務局】 人が多い場合のプログラムと少ない場合のプログラムに分ける必要があるが実施する予定です。

【委員】 プログラムの内容について、町としてチェック、提言する仕組みはどうなっているのでしょうか。

【事務局】 現在の子育て支援センターで行った事業等について、反響がよいものについては現在の支援センター職員と民間事業者がプログラムを検討していきます。運営や事業展開等については、今後も子ども・子育て会議で議論していきたいと考えております。

【委員】 民間事業者について、相談事業部分も委託するのでしょうか。その場合、専門家は常駐するのでしょうか。

【事務局】 委託事業者の在駐職員に資格を持っている者がいる場合は委託してもよいと

考えていますが、基本は相談を受けた際に町職員が子育て支援総合センターへ出向き、相談希望者と相談を行うという形での対応を考えています。

【委員】理想は町職員の常駐職員が最低ひとりいればよいが、人件費等との兼合があるため、仕方ないことだと考えています。事業者と行政との引き継ぎがしっかきできないと行政側が責任持ってサポートしなければいけない人たちを取りこぼしてしまう可能性もあるので、委託するとしても連携を密にする仕組みを作ってほしいです。

児童センター

【委員】利用については予約制とするのでしょうか。人数制限はする予定はあるのでしょうか。

【事務局】予約、人数制限についてはどちらも予定していません。

【委員】主任児童委員の事業（子育てサロンさくらんぼ）で施設の利用（貸し出し）はできるようにするのでしょうか。

【事務局】町内の児童に関連する事業についてはできる限り子育て支援総合センターで実施できるように進めています。

【委員】児童センターまで小学生以上は自転車や徒歩で通うので、駐輪スペースと歩道を整備してほしいです。（子どもがひとりで児童センターまでいける環境の整備）

【委員】巡回バスについては過去の会議で使えるようにならないか議題に出てきたことがあったと思いますが。

【委員】下校後にスクールバスを使わないのなら、スクールバス、巡回バスは使用できるようにならないのでしょうか。八ツ保小学校以外の児童は一度家に帰ってしまうと利用しにくいと想定できます。

【事務局】スクールバスについては検討中です。なお、巡回バスはかわみんタクシーに方向転換してしまったため廃止となっております。

【委員】（教育総務課長）特に出丸地区、小見野地区の子どもたちについては利用しにくいと認識しています。スクールバスの利活用は現在、協議会で協議中です。スクールバスについては、学童保育からも利用の希望が出ております。

また、スクールバス以外での公共交通としての利用についても現在検討中です。この件については協議会に持ち帰らせていただきます。

児童センタープログラムについて

【委員】業者から提示されたプログラムは小・中学生対象のプログラムだが、高校生の利用はどう考えているのでしょうか。

【事務局】中学生以上から利用は少ないと思います。今後、高校生対象のプログラムも考えていきたいです。

【委員】都内の児童センターでは高校生対象のプログラムがあったはずですが、この件はどこかの児童館でも頭を悩ませている部分であり、中学生高学年～高校生向け遊具が1つでいいので設置してもいいのかもしれない。

【委員】自分の子が通っていた高校が地域貢献としてボランティアを推奨していましたが、多感な時期の子どもが自分から希望を出すのは難しいため、児童センター、スクーリングサポートセンターのボランティアで募集をかけてもいいかもしれません（夏休み等）。学童でも中学生のボランティア募集をかけています。ある子は学童に通う子に勉強を教えていましたが、それを機に、教

師となりました。ボランティアを通じて自分の道が開ける児童もいます。

【委員】年齢が高い子ならボランティアをしてもらうことで自分を高める子もいます。面倒をみる側みられる側双方向にいい影響があります。ぜひ検討してほしいです。

ただし、受動的な児童、能動的な児童、両方いるため、ボランティアを募集するなら両方の児童が活用できるプログラムを準備する必要が有ります。

【委員】今回、例として提示してくれた事業者が作ったプログラムでは、保育園でも実施できるプログラムであるため、小学校の上級生以上には物足りないと思います。小学校上級生～中学生を対象としたプログラムを充実させてほしいです（網打ち会に依頼して魚とり、解剖実習、昆虫研究等）。

【委員】総合センター内の部屋を活用し、時間を決めて、ボランティア（中学・高校生）に勉強を教えてもらう寺子屋プログラムとかもぜひ実施してほしいです。

また、アニメの影響で百人一首がブームとなったため、そういったブームに乗った知的好奇心が高まる遊びを行ってほしいです。

川島らしさのあるプログラムを出してほしいです。

【委員】事業者のプログラムはオーソドックスな子育て支援センターや児童館で実施されるプログラムなので、川島らしさのあるプログラムにするため、事業者に提案して行ってほしいです。

【委員】（教育総務課長）児童センターで地域子ども教室的プログラムを取り入れられないか、自然学習、体験学習ができないかと検討中です。また、スクーリングサポートセンターの1部屋は勉強を行う部屋として整備しており、小学校～高校まで連携した教室を開けないかと現在検討しています。

【委員】東京オリンピックの影響で英語村が各地で作られたので、英語と触れ合えるプログラムを実施してほしいです。

【委員】川島町の歴史を知る郷土史系のプログラム（小中学生向き）を実施してほしいです。

【委員】とてもいいプログラム案が出ました。是非、参加して、遊ぶ中で学ぶことのできるプログラムを提供できるようにしてほしいです。

放課後児童クラブ

特に委員からの意見なし

スクーリングサポートセンター

【委員】学習支援としてスクーリングサポートセンターにPCを置いてほしいです。

【委員】（教育総務課長）子供の教材として置きたい。予算の検討をします。

【委員】（学校長）お願いごとであるのだが、学校側は各家庭と連携して動いているが、対人能力が身につかない子どもが増えています。保護者側には「不登校」は厳しい言葉である。言葉の使い方には気を付けてほしいです。

中学生ボランティアは川島町でも活発に行っていますが、ボランティアやプログラムで中学生が傍若無人な態度をとり、迷惑をかけるケースも想定できます。その場合の対策を立ててほしいです。


【委員】学童でも通いたくないが親に命じられて預けられているという児童も在籍しています。そのため、学童でも保護者に対して「不登校」や「いじめ」は禁止ワードとなっています。

また、中2、3年から勉強が追い付かなくなり不登校となる児童もいます

が、ひとり親が多く、保護者は経済的、精神的、肉体的に余裕がありません。
そのようなときは、子どもからの相談について、学童が保護者への橋渡し
役となる時もあります。

学力低下については、児童で勉強に一度遅れると追いつけないケースが多
いです。自主的に学べるよう、ゲーム感覚で扱える教材を置いてほしいです。

【委員】（教育総務課長）いただいた意見は非常に貴重な意見のため、参考とさせて
いただきます。

署 名	山口 三葉子 
	栗田 高美子 